

# みんなの居場所

## 裏面の話題

みんなの居場所の裏面も、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和8年4月20日(月)

### 役立つ名言

歴史に名を残した人の名言は、現代社会を生きる私達にも多くの示唆を与えてくれるものです。旧日本海軍山本五十六の言葉を紹介します。

やってみせ、言ってみせ、聞かせて、させてみて、褒めてやらねば、人は動かじ。  
話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。  
やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。

「この名言の中の「人」の部分を置換えると面白いですよ。学校現場では「児童・生徒」あるいは「教職員」と置換えると…、家庭に於ては「我が子」…。何れでも置換換えることが出来るんですね。このことは、「人材育成」はこの視点に立つて展開されるべきなのです。最終的には人を褒めなければなりません。何れもかたても総監督が「あれこれ」ではだめです。褒めて、任せて、信頼して導くと、そして待つことが出来る人間になりたいものです。

多くの「道」「道」「守破離」という、教えがあります。人の成長もまさに「守破離」です。まずは真似て、基本を破り、師を離れ、自分自身を磨くのです。そういう姿を見守っていくのが「師」と出会うのも重要ですね。多くの人と出会い、縁を大切にしたいですね。



### シリーズ「自分を語る」#01

9月1日の研修開始まで、トタバタと日々を過ごしていた私澤田。他にも色々ありました。留学生はフィリピン、研修員は韓国、中国、タイ、カンボジア、ペルーと世界各国から来ていました。その呼び寄せにも税金が使われます。韓国の研修員は総務委員が呼び寄せの主体でした。それから半年ほど苦勞はしました。日本語研修施設から熊本に呼び寄せると時だけ気もなりましたが…。中国からの研修員も、通訳もできました。タイとカンボジアの研修員も途中色々ありましたが、何とか呼び寄せることができました。問題はフィリピンとペルーの研修員でした。留学生については私の前任者が受け入れて手続していましたので、苦勞は感じませんでした。海外技術研修員は8月来日ですので少反見です。この頃は当時、テロへの警戒が続いていたからです。

2001年9月1日のアメリカ同時多発テロ以来、ニューヨークをはじめとするアメリカの空港はトランジットを含め、出入国に非常に過敏になっていました。研修員を呼び寄せるためにかかる費用も安いに越したことはありません。(国によって旅行事業者の強い差があるのは、新たな発見でした。)フィリピンからの研修員を呼び寄せるには、ニューヨーク経由が最も安く、合理的なルートでした。しかし、トランジットの際、身分確認に時間がかかるというデメリットが8月1日から数日するところが判明したのです。そこで、ニューヨーク経由ではなく、パリ経由で来日させる案で行うということになったのですが、費用が10万円ほどかさばりました。財政課が十分なOKはするはずがありません。案の定「何れ一番安いルートではダメなのか」という問い合わせがあり、そのために数回の財政課議(もつで)をしました。何とか説明して決裁！晴れてパリ経由でフィリピンからの研修員を呼び寄せることができました。

これまで教育現場しか知らなかった私は、たった半年で「世の中には知らないことがたくさんあるんだなあ…」と改めて感じました。これからは、熊本での研修が、教員と生徒にとって掛け替えのないものになるように、しっかりと「ネット」を通じて「専念」していきます。県内各地に散らばっている教員と生徒と師の連絡を取り、東奔西走の毎日を展開していきます。(つづく)